

# カンボジア出兵反対

大阪北摂  
で集会  
海外と連帯し闘う

自衛隊の海外派兵に反対する北摂市民連絡会の主催で、自衛隊の海外派兵—カンボジア出兵に反対する集会在、一八日午後七時から、大阪府の

高槻市民会館でおこなわれ、同市をはじめ北摂地域から労働者、教師、市民運動活動家など二二〇人があつまった。主催者を代表し協田氏(北

摂生活者ユニオン理事長があいさつした。同氏は、この間のPKO協力法反対斗争の高揚の特徴にふれ、全国各地のねばりつよい運動が国会を

もゆり動かし、さらに議院内の斗争が各地の斗争をほげまし、さいきんではかつてない斗争へと発展したとのべ、これまでこの斗争に確信をもち、PKO協力法反対の斗争をさらに発展させなくてはならぬといこと、またこの斗争が国際的に連帯しうる斗争であり、海外の帝国主義に反対する斗争と連帯していることを強調した。

山下氏(茨木市議)がこの間の経過報告にたち、五月の毎週金曜日に、高槻、茨木、摂津、吹田の各主要駅々—ミナルでこの宣伝をしてきたこと、市民連絡会のよびかけ人が一八日現在二三人に達し、ひきつづきひろがっており、市民の関心も高まっていることを報告した。松井義子氏(大阪YWCA平和委員会、韓国の原爆被害

者を救う市民の会長、吹田市在住)が、「戦争の傷跡をのこしたまま海外派兵への道はゆるさない」と題して講演した。

また集会では「カンボジア出兵と自衛隊現場」と題して特別報告がおこなわれた。

今後の取組について山下氏が報告し、豊中市や伊丹市の自衛隊駐屯地への抗議行動、参院選を反PKO・反自衛隊としてたたかい、広島などの反PKO候補者に撒布をおくる、八月二日(金)から宣伝活動を再開し、カンボジアへの派兵に反対する学習会やさまざまな取組を強化していくことなどを述べた。